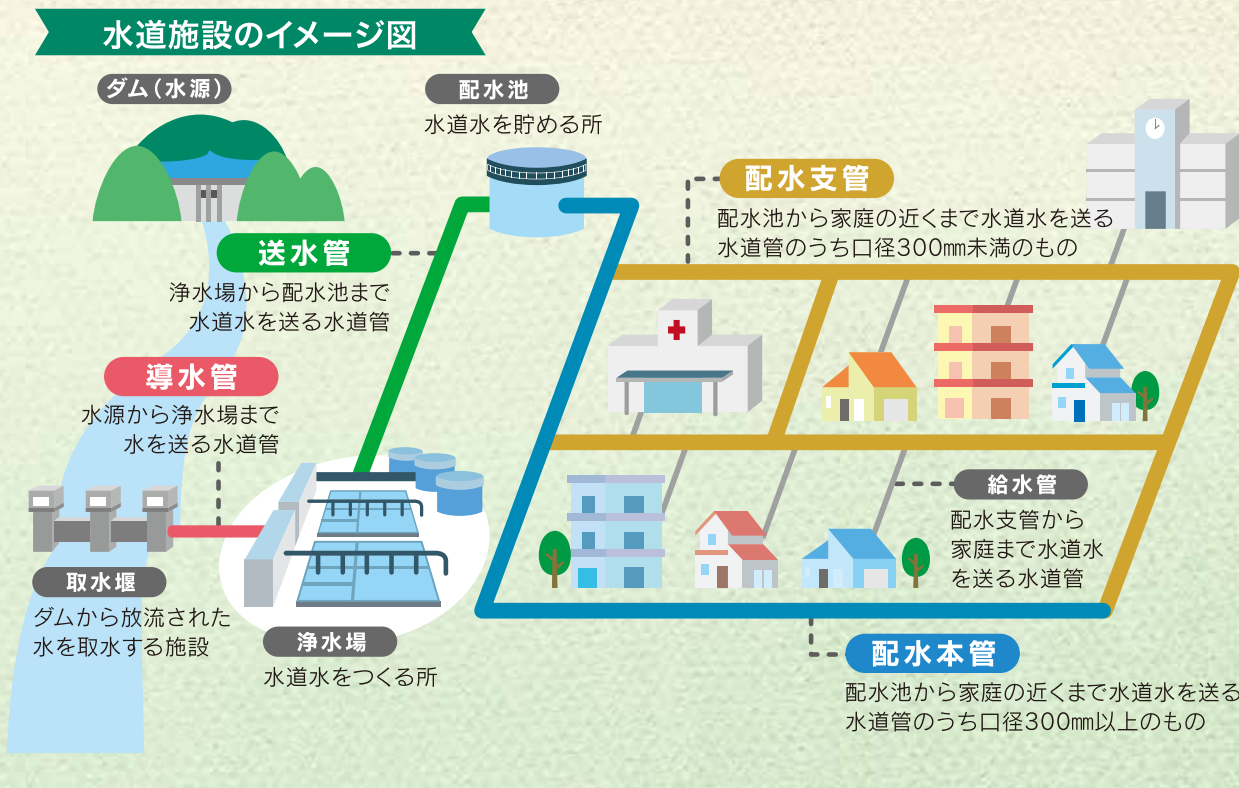


地震に強い水道を目指して… 水道管の耐震化を進めています！

大きな地震が起こると、大切なライフラインである水道に被害が出て、断水する恐れがあります。マグニチュード9を記録した東日本大震災では、250万戸以上が断水し、復旧するまで約5カ月もの時間がかかりました。

松山市では、発生が予測されている大きな地震に備え、水道管の耐震化を進めています。また、救急医療機関など重要な施設への給水ルートの確保にも取り組んでいます。

写真：宮城県企業局提供



地震で水道施設に被害が出て、断水が発生した場合には、給水車や緊急用貯水槽（市内4カ所の小中学校に設置している、水道水を貯めておく地下タンク）から水道水を皆さんにお配りすることになります。松山市では、地震などの災害に備えて、近隣の自治体や市内の水道工事業者と合同で給水訓練などを定期的に行っています。

しかし、被害が大規模に及び、広い範囲で断水が発生すると、皆さんに水道水をお配りするまでに時間がかかってしまいます。

そこで、松山市では、ご家庭でも日頃から地震への備えとして、食料や飲料水を1週間分備蓄していただくことをお願いしています。

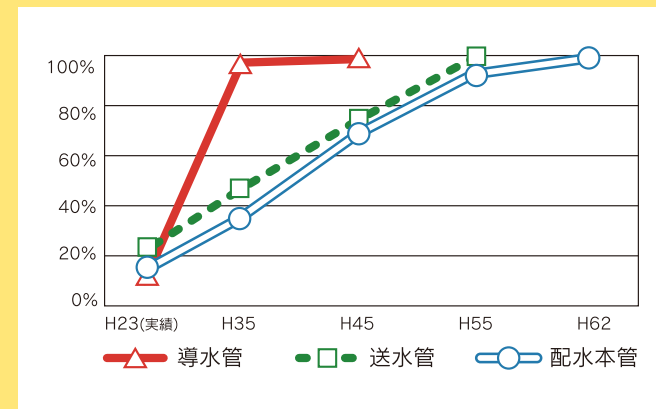
もしものために…
家庭で、できる備えがあります



「基幹管路の耐震化基本構想」を策定し 計画的・効率的に耐震化を進めています

平成24年度に「基幹管路の耐震化基本構想」を策定し、基幹管路の中でも、被害率や重要度の高い水道管から優先的に取り替えを行っています。

- 期間 平成25年度～62年度（38年間）
- 費用 約545億円
- 耐震化する水道管の長さ 約211km
- 耐震適合率の推移



※松山市では、導水管・送水管・配水本管（配水管のうち口径300mm以上のもの）を基幹管路としています。（水道施設のイメージ図参照）

水道管は、水源から浄水場、配水池、そして蛇口までをつないでいる大切な水道施設です。松山市には、およそ2千km（列車で松山から北海道まで行ける距離）もの水道管があり、この全てを耐震化するには時間がかかります。

そこで、松山市では、地震による被害をできるだけ少なくするため、水道管の中でも、管の口径が大きく、破損した場合

水道管の耐震化は、
どのように進めているの？



に影響が広範囲に及び基幹管路を特に重要な水道管とし、重点的に耐震化を進めています。

また、大規模な地震が発生したときには、救急医療機関に水道水を届けることも重要となるため、市内14カ所の救急医療機関につながる配水支管の耐震化にも優先的に取り組んでいます。

ご準備ください！

- ・「1人1日3リットルの飲料水」を1週間分
- ・給水タンクや給水袋など、水道水を受け取る時に使う容器



東日本大震災時の給水車による応急給水(仙台市)



緊急用貯水槽からの給水訓練(松山市)